

●特集

どう詠み、味わう？ 忌日の俳句

●追悼企画

追悼・鍵和田柚子

●巻頭作品10句

秋尾 敏・石渡 旬
笹瀬節子・嶋田麻紀
成川雅夫・藤本美和子
星野恒彦・矢島 恵

●巻頭エッセイ

マブソン青眼

●好評連載

思想としての虚子
続々・日本の樹木
四季巡詠33句
宮坂静生・柴田佐知子
俳壇史エピソード
季語への供物

俳壇



昭和59年8月27日第三種郵便物認可 令和2年10月1日発行(毎月1回1日発行) 第37巻第10号

俳壇

昭和59年8月27日第三種郵便物認可 令和2年10月1日発行(毎月1回1日発行) 第37巻第11号

●本阿弥書店

●定価九〇〇円 本体八八円

滑稽俳句協会 会員募集

滑稽俳句について

- ◆俳句とは「俳諧の句。こっけいな句」である(『広辞苑』)
- ◆寒川鼠骨は「滑稽にあらずんば俳句にあらず」と説いた
- ◆柳田国男は「人を楽ませるものが芸術なのに」と戦後の俳句を嘆いた
- ◆加藤郁乎は「滑稽をさしおいて俳句を論ずるのは滑稽だ」と主張した
- ◆山本健吉は「俳句には滑稽、挨拶、即興という命題がある」と明言した

しかし、明治、大正、昭和は、日清・日露・太平洋戦争という時代を背景に笑いは自粛され、滑稽俳句不毛の時代であった。そして、平成になって、ようやく滑稽俳句の復興が始まった。

滑稽俳句小史

- ◆平成14年 『俳壇』(本阿弥書店)に滑稽俳句欄創設
- ◆平成20年 滑稽俳句協会創立
- ◆平成27年 『滑稽俳句集』発刊
- ◆令和元年 『平成の滑稽俳句』発刊



『俳壇』の滑稽俳句欄13年間の全3213句と寸評(308頁)



滑稽俳句協会報10年間の特選句と寸評、滑稽俳句大賞作品ほか全2817句(300頁)

滑稽俳句協会 会長：八木 健

〒791-2103 愛媛県伊予郡砥部町高尾田1173-4

電話 090-8287-1390 FAX 089-957-1155

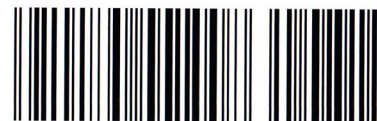
メールアドレス kokkei@kokkeihaikuyoukai.net

ホームページ *滑稽俳句協会でご検索できます

年会費7000円 *毎月滑稽俳句協会報をお届けします

雑誌 17555-10

Printed in Japan



4910175551008
00818

表現する情景の大きさ、厚み、奥行きを求めたいと思う。俳句という十七文字の文芸は、日本語の奥深さを知ることにも必要であり、特に推敲する力をつけたい。また楽しい作句のためには、日々の生活や自然の中で、新たな感動を得られるよう心掛けたい。

安曇野

名小路明之

〔帆〕

この先は二輛列車や稲の国
安曇野の大地うるはし栗を食む
錦木の色重なりて浄土とも

澤の音消えて峠や紅葉狩
雁がねの棹の消えゆく甲斐の朝
安曇野の濃霧伏せをる夜明かな
中秋や雲にたゆたふ舟は月



名小路明之 (なこうじ・あきゆき)

昭和18年生まれ

平成12年作句を始める

平成27年「帆」に入会、浅井民子に師事

俳人協会会員